

□プロログ。どこかの街の廃墟で

(左 近距離 普通の声)

逃げて、きちゃいましたね。

今頃ガルメア王都は大騒ぎでしょうね。勇者様がなくなってしまったんですから。

私は勇者様の誘拐犯として、公開処刑って感じでしょうか？

……あんな国、気にする必要ないです。みんなみんな、お姫様までひつくるめて、人任せじゃない。

私達だって、人任せにしちゃえばいいんだわ。

壊れかけの境界防衛炉とか、最近増えてきた知能を持つ魔物とか、

実は既に壊れちゃってた人族領域の神聖結界とか、全部、全部。

ご主人様。ナツね、昨日はすごくびっくりしたんですよ。

ご主人様、急に起き上がらなくなつて、帰りたい、帰りたいって。言つて、止まらなくて元いた世界に戻りたいんじゃないかなかったんですよ。

ここにいたくないって言つて、叫ぶわけでもしゃくりあげるわけでもなくて、人形みたいに動かなくなつて、目から涙だけ流れて、拭いても拭いても止まらなくて、抱きしめるまで止まらなくて。

私を守ります。私が貴方を守る。

ご主人様に王国をあげることはできなかったけど……私は私をあげられるわ。

貴方はご主人様。勇者様でもなく、救世主様でもなく、予言の中の登場人物でもなく。

私の、ご主人様。

たった一人しかないない、私の、ご主人様なんです。

だから。

どうかお願い、

(左 超近距離 囁き声) (身を乗り出した状態です)

……泣き止んで。

□どんより雲の夜の添い寝・前半

(中央 近距離 小声)

……ご主人様。ご主人様。

もう夜ですよ。ぼーっとされたままだとお体に悪いです。

お食事をして、身支度をして、もう寝ませんか。

……う。

お辛いですか。

眠気も、無いのですか。

私を買って頂けたばかりのとき、よく泣いてましたよね。

本当に独りぼっちになってしまったと。ナントカというお店のギュードンが食べたいと。

そんな時、私も付き合って、こんな世界の飯なんて食ってられるかって叫びながら、一緒に夜ご飯を抜きました。

今日もそうしましょうか。

ご飯なんて一日食べなかったくらいで死なないわ。

お湯浴びだって省略しましょう？ 省略が流石にイヤなら、ばしやーっと流して、それで終わり。

お湯もご飯も、テキトーにしたって全然死なない。

ご主人様が、お辛いのが、一番悲しいです。一番、嫌です。

ふふ。そうですそうです。もう寝ましょう。

(左 超近距離 囁き声)

大丈夫大丈夫。何も怖いことなんてない。何が来たって私が貴方を守ります。

二人の愛の逃避行、誰にも邪魔させやしないわ。

そして世界の隅っこの教会で二人っきりで永遠の主従の愛を誓うんです。

お嫌ですか？ 私は最高の気分です。何が問題ですか？

……やだ。泣かないで。

私達フェアリーは魔力生命体で、想いの力の結晶体ですから、周りの人が悲しんでいる

と、心が震わされて、

こちらもただではすみません。

辛いんですよ。クールな雪フェアリーのつもりなのに。

んう……参ったわ……

これですか。

(キス音、アドリブ1秒換算)

私を買って貰ったばかりの頃、こうやってほっぺたにキスをすると、すごく喜んでいましたから。

懐かしいですね。当時の私はまだ子供でした。

メイドごっこをやり出したのはいつくらいでしたっけ。魔族領域序列一桁を倒した頃ですか。弱くはなかったですよ。

その頃から、私は私を名前で呼ぶのをなるべくやめるようになりました。

メイドがそんなことしたらカッコ悪いですもの。

私がこの服を着ると、ご主人様がすごく喜んでいたので、つんとすましていましたが、私も嬉しくなった記憶があります。

奴隷というと聞こえは悪いですが、喜んでくれる相手からの命令は、だんだん従うとゾクゾクして嬉しくなってくるんです。

一度ハマってしまうともうダメですね。相手を喜ばせる事以外考えられなくなる。

もう頭馬鹿になってしまいました。ご主人さまのせいだわ。

だから……

(耳舐め5秒)

ご主人様が寝付くまで、奉仕させて頂きます。

(耳舐め30秒)

口と口のキスは危険ですからね。共振が進んじゃう。

(粘膜の接触が続けると、聞き手が持つ聖属性魔力によって、ナツが洗脳状態のようになってしまいます。)

(その事は聞き手もナツも知っています)

（耳舐め15秒）

気持ちいいですか？ ふふふつ。

（耳舐め90秒）

一人ぼっちになってしまったと思ったことはありませんか。

群れからはぐれてしまったという意味ではありません。

むしろ、その逆で……群れの誰よりも、先に行ってしまったという感覚です。

頑張れば頑張るほど誰もいなくなつて、

もっと知りたいと思つて知れば知るほど、周りに並ぶ人は誰もいなくなります。

（耳舐め8秒）

ナツにはあります。もう、元の場所に戻つても、きっと誰も歓迎してくれません。

（耳舐め10秒）

でも、ナツにはご主人様がいます。

ご主人様にも、ナツがいます。

忘れないで。お願いします。

（耳舐め50秒）

そして、こうしてご主人様がここに転移してきたように、私を見つけて頂けたように、  
楽しい人も、悲しい人も、罪を犯した人も、犯された人も、

その人にぴったり合った幸せな異世界があつて、その場所に大切な人が待っていて、  
その異世界に行けている——そう祈つて、とりあえず今はただ休むんですよ。

（耳舐め2秒）

戦いの基本は勝てる場面まで逃げることなんですから。

逃げちゃダメなんて言ってるやつは、一度だって命をかけて戦った事がないんですから。

（耳舐め80秒）

……気分が落ちてるのですね。

体に一切力が入らないのに、うまく体から力を抜けないのではないですか。

もうこうするしかないですね。

音を、聞いて。

私は妖精です。世界を救うご主人さまに仕える、自然の具現。

この星と人族の想いから生まれる、この世界そのもの。

ご主人さまは世界を救う救世主様だけだ——

貴方の意思も、心も、体も……私のこの音に比べれば、ちっぽけなものです。

音を、聞いて？ 想像して？

貴方を追いかけるものは、人族大陸すべての空より、吹雪が舞い続ける無限の山脈より、大きいですか？

その私が言うんです。ご主人さまは安全です。

雨がやんでも、雪がやんでも、この音は絶対にやまないわ。

今のでほんの少しだけでも体と心のこわばりが抜けたなら、

お歌を、歌ってあげます。

いつも、歌を歌えば、気持ちよさそうにお休みされますから。

歌姫をやってあげるわ。ご主人様だけの歌姫。語り歌う場所はこの布団。

私に歌ってくださったご主人様の世界の子守歌でも、ナツの世界の子守唄でも。

……リクエストはありますか？

□どんより雲の夜の添い寝後半。

おわりです。

お粗末様でした。

……起きてませんよね。

前、ナツに気を使って寝た振りしたことありましたでしょう。

もう気付きますよ。二度は繰り返しません。だから、起きてたら、私もずっと一緒に起きてますから。

代わりに、おやすみするなら、私も一緒にお休みさせて下さい。

二人で、一緒に、お休み、です。

□ほんの少しだけ明るい月夜の慰め・1 導入

（中央 中距離 普通の声）

今日は、めちやくちやになりたい気分……ですか。  
アレをやるんですね……いいですが。

（中央左より 中距離 少し小声）

どんなに変態ちつくな事でも、  
ご主人様が何かに意欲があるということで、ご気分がマシという事は良いんですが、  
あんまりやりすぎるとご主人様が馬鹿になりそうで怖いです。

でも、ナツとご主人様が二人で「ねんごろになる」には、アレしか無いですしね。  
最後までのは行為はおろか、性器を触るだけでも、  
ましてや性器を使う慰みをサポートするだけでも、  
ご主人様に取り付いた強大な聖属性魔力が、私に流れ込んで、いつかのような面倒な事態  
になってしまいます。

（左、超近距離に向けてゆっくり動きながら 少し小声）

変態っぽくなれるところも、今ちよつとまぞが入っているご主人さまにはちょうどいい  
のかもしれないです。

（左 超近距離 囁き）

……乳首オナニ。  
乳首だけを使って気持ちよくなる行為を、ご主人様、介添えさせて頂きます。

□ほんの少しだけ明るい月夜の慰め・2催眠誘導

(左 超近距離 囁き)

そうだ。そういえば、ご主人様？

気持ちよくなるおまじないがあるんですけど……興味ありませんか？

(中央 超近距離 囁き) (いつでもキスできるような至近距離で見つめています)

おまじないはおまじないです。

言葉で、ご主人様の思考にちよつとだけ暗示をかけるんです。

妖精がたまに旅人を惑わして道に迷わせたりするのは、魔力と言葉で暗示をかけてやっ  
てるんですよ。

ご主人様にもかけたことありましたっけ……？

怖くないですよ。私がご主人様に、害のある暗示をかける事は未来永劫ありません。  
というか、呪属性魔法とかじゃないと、意に反するがちがちの催眠はかけられないし。  
妖精式の催眠術で、もーっと気持ちよくなりたくなりたくありませんか？

……とろとろになりたいって顔ですね。  
可愛い……。

(左 超近距離 囁き)

じゃあ、まずは深呼吸をして下さい。

今からご主人様に深く深く集中した状態になって貰います。

暗示と言っても、要は疲れ果ててる相手とか、逆に集中している相手にしか入りません  
か。  
ら。

逆に言えば、ご主人様がすごくすごく私に集中してくれたら、

私の言うことを何でも聞いてくれるようになってしまうわけです。ふふっ……。

というわけで、集中する為にリラックスしましょう。深呼吸……。



吸って、吐いて。  
吸って、吐いて。

リラックスを意識しながら深呼吸しただけで、ちょっとだけ気分が変わる事に気付きましたか。

吸って、吐いて。  
吸って、吐いて。

そして一回呼吸することに、手、肩、体のパーツがほんの少しだけ重くなっていくわ。

吸って、吐いて。  
吸って、吐いて。

ちよつとだけでも、体のどこかが重くなったと思います。これが妖精式の暗示です。ふふ……。

深呼吸はずっと続けてくださいね。深呼吸しているだけで、どんどん集中が進んでいって、暗示の入りやすい心になります。

吸って、吐いて。  
吸って、吐いて。  
吸って、吐いて。  
吸って、吐いて。

良いですね。今、ご主人様は既に暗示状態の入り口にいますよ。

妖精の声は旅人を惑わす……私達の世界なら誰でも知っている常識です。

私も、もちろん、何度か旅人で遊びましたよ。

ご主人さまに会う前の子供のナツですから、あほな子供がやるようなイタズラをして帰しましたけれど、

ご主人さまのことは、帰すつもりはありません。

最後にもう一セット、吸って吐いてを繰り返すと、ご主人様の集中が一気に進んで、すたん、と……催眠状態になってしまいます。

催眠状態はね、すごく気持ちいいんです。

ぼやんとして、でも声だけははっきり聞こえて、聞いているだけでぞくぞくして。気持ちいいのがだいすきなご主人様は、抗えないわ。

いきますよ。

吸って、吐いて。

吸って、吐いて。ほら……

（暗示を畳み掛けるように）意識が切り替わるみたいにどんどん入っていく。

私之声だけを聞けるよう、意識が作り変えられていく感覚。

ぐるん、脳を残して周り全てがひっくり返ったみたいな状態になって、

ただ私之声だけが頭に響いて、ぞくぞく、ぞくぞくが始まる。

（少し間を入れます）

ふふ。これで成功です。とろんってなってますよ、ご主人様。体が重くて、心地いいはずだわ。

（右に向けて動きながら 超近距離 囁き）

今の段階で十分気持ちいいと思うけれど……まだ先があるので、もう少し催眠状態を深くしておきます。

催眠状態が深くなっていればなっているほど、暗示の効果が強まりますから。

（右 超近距離 囁き）

これから数字を3つ、何度も数え上げたり数えおろしたりします。

ご主人さまはそのたびに、私の指示に従って下さい。

私の指示に従って、私の暗示を受け入れるたびに、どんどんご主人様は催眠状態になって、ふわっとして、

ナツの言葉の言いなりになってしまいます。

何をしようとしているかというと、ご主人様の意識を、時計の振り子のようにしようとしているんですよ。

集中状態を振り子のように揺らして、浮かび上がって沈み込むのを繰り返せば、どんどん深く強く催眠に入っていきます。

集中状態を軽くして、重くして、軽くして、重くして……。

ずうんと、空飛ぶ龍の背に乗るみたいに、集中状態にダイブすると、

何回目かで、本当に妖精に魂を抜かれた人みたいな催眠状態に、なれるんですね。

まずは今の催眠状態を軽くしますね。私の言葉を意識して下さい。

1、重くなっていた手足の感覚が、ほんの少しだけ軽くなる。

2、なんとなくとした感じは残ったまま、周囲の感覚をもうちよつと思ひ出す。

3。（指を弾く効果音）

手をぐーっと前に突き出して下さい。伸びをする感じです。

ちよつとだけ集中が解けたはずです。

伸びをすると、気持ちいいわ。気持ちいいのがじん、と上半身に響いて…

手を前に出したまま、伸びを止めて下さい。今度は催眠状態に戻ります。0になった瞬間、手をだらんと落として下さいね。

3、さつき軽くなった手足が、急速に重くなっていく。

2、瞼も一緒に急激に重くなる。重い。重い。どこまでも、重い。

1、もうほぼさっきの催眠状態に近いですね。とろんとして、世界が遠い感じ。

0。（指を弾く音）

（暗示を畳み掛けるように）落ちる。落ちる。催眠状態に落ちる。催眠状態になったまま、凍ったみたいに頭も体も動かない。

ふふ……ご主人様、ナツが凍らせてしまいました。

これですーっと一緒です……。ずーっと二人でいまししょうねー。

催眠状態を軽くします。

1、凍ったはずの手足の感覚が戻ります。

2、ぼやんとした気分はそのままですが、一瞬だけ催眠状態がなくなったような錯覚を覚えます。

3。（指を弾く音）

手をぐーっと前に突き出して下さい。伸びをする感じです。

少しぼやっとしていますが、これで催眠は一時的に解けていますね。  
だんだん戻るのも催眠状態になるのも早くなっていますよ。心が慣れるんです。

戻ります。さっきと同じで、0になった瞬間、手をだらんとして下さい。

3、起きたはずの体が、また催眠状態に戻ります。

2、落ちる。落ちる。凍る。凍る。深い。さっきのカウントダウンよりもずっとずっと深い。

1、大丈夫だろうか？ くらい深く落ちる。大丈夫ですよ。ナツがそばにいます。だから、深く落ちましょう。

0。（指を弾く音）

だらん。

落ちる。そして、手足の先から凍っていく。がちがちで、動かない。  
痛くないのは、凍らせている私が貴方を……愛しているから、です。

そのぶん強力な氷のほずですよ。魔力の力は想いの力ですからね。もう、ぴくりとも動かないかもしれません。

もう何をしてもしくりとも……動かないかもしれません。

催眠状態を軽くします。大丈夫ですよ。戻ってこれます。ただの言葉だけの暗示ですから。ちよっとだけ魔力も入れてますけど。

1、2、3。（指を弾く音）手をぐぐーっと前に突き出して。

戻ってきますよ。戻ってこれます。

ふわふわして、けつっつこう催眠状態という感じですね。でも、それより更に先がありますから。

3、2、1、0。だらーん……。重い。全身が重い。本当に凍っているみたいに、手足が一切動かない。

貴方の体は、私が言葉で与える暗示の通りとなる。

1、2、3。手をぐぐーっと前に突き出して。

3、2、1、0。入って。……ふふっ。

（中央 超近距離 囁き）

あーあ……もう、ご主人様は私のもの。

ご主人様が悪いんですよ。そんなにも可愛らしい表情で体も心も差し出すのだから、好き放題してしまいたくなるんです。

それを望んでいるんでしょう？

では。もう夢うつつという感じで聞こえていないと思いますが。

ご主人様に一番効くやつを二つぶちこんであげますね。

(左 超近距離 囁き)

(耳キス、アドリブ1秒換算)

ご主人様の体は、今、催眠状態です。私の言うことを、何でも受け入れてしまう。その上で、

(耳舐め1秒)

まず、今から私は、舌を通してご主人様に魔力を注ぐようにします。

注ぐ先は、耳。

妖精の暗示術は、言葉と魔力を通して暗示をかけるもの。

耳から魔力を入れられるほど、ご主人さまの催眠は深くなる。

(耳舐め1秒)

そして、二つ。貴方は耳を舐められて気持ちよくなるほど全身の感度が上がります。

もちろん、全身というのは耳もですよ。快感が魔力と反響して連鎖するんです。

だから、耳を舐められている限り、ずっとずっと催眠に落ち続けて、気持ちよくなり続けて、止まらなくなっちゃいます。

ご主人さまは耳を舐められるだけで催眠に無限に落ち続ける。

そして、ご主人様は、耳を舐められるだけで無限に体の感度が上がってしまう。

耳だけで頭が真っ白になってしまうかもしれませんよ。

……ふふふ。感度、試してみます？

今から3秒数えると、貴方の体は催眠状態であるにも関わらず、催眠状態のまま動くようになります。

3、2、1、0。(指を鳴らす音)

体が動く。にもかかわらず、貴方の催眠状態は解けません。そういう催眠だからです。

まず、耳を舐める前の体の感度を確認して下さい。

お腹とか、脇腹とか、二の腕とか、エッチなところ以外で、自分の感覚を確認してくださいね。触って。

もういいですね。手を止めて下さい。ほら……止めて。

……耳を舐めますね。耳を舐められれば舐められるほど、感度が上がります。  
あーん……

(耳舐め10秒)

さて、また3秒数えたら体を触って下さい。

さっきと違うのは、体の感度。

まるで今まであった薄い皮を一枚ぺりぺりめくったみたいに、全身がくすぐったい場所になったみたいに、

ぞくぞく、ぞくぞく、気持ちよくなってしまいます。触り続ければおかしくなるくらいに、全身が。

3、2、1、0。触って。

ぞくぞく、ぴりぴり、びくびく……全身が震えそうくらい、エッチなところは何も触ってないのに……すごくすごく感じます。

こんな状況でエッチな場所を触ったらどういう気持ちになるんだろう

どうなるんでしょうね？ 想像してみてくださいね。変、態、ご主人様。

(中央 超近距離 囁き)

……あーあ。出来上がっちゃった。

(左 超近距離 囁き)

これで暗示は終わり。

夜の森を、冬の山を、抜けられないみたいに、貴方はもう、「気持ちいい」からは抜けられない。

□ほんの少しだけ明るい月夜の慰め・メイン（ループ可能）

（左 超近距離 囁き）

乳首を弄りましょう。

まずは、シャツの上から、ひっかくように。

単純で、一番気持ちいいですよ。

私もよくやります。貴方のことを考えながら。

かりっ……かりかり……。

甘く傷つけるみたいに、「気持ちいい」を確認して。

そして一度気持ちいいを確認したら、早くしたくなりますよね。

かりかりかりかり……かりかりかりかり……。

続けるのよ。

（耳舐め20秒）

体を震わせたくなったら震わせて下さい。

切なくて我慢できなくなったら、もっとナツに身を委ねて？

シャツの中に手を入れましょう。

でも、いきなり生で乳頭には触らせないわ。

気持ちよくなりたいなら指示に従って。

気持ちよくなりたいなら、私の命令は絶対です。

最初は脇腹から。次は胸のあたりをなぞるように。爪を立てたり、指先の先で、羽でくすぐるみたいに感じて。

（右 超近距離 囁き）

(耳舐め30秒) ……そして、十分に焦らしたら、乳首を弄りましょうね。

まずはすりすり一指先で弄りましょう。これもシンプルで気持ちいいでしょう。体を慣らしていけば、これだけでイけるくらい。でも、まだイったらだめですよ。

(耳舐め15秒)

(子供をあやすように) 気持ちいいですね…。

(耳舐め15秒)

つまんで、乳首をくりくりして下さい。

くりくりしたら、また指先で弄って。

変化をつけて、繰り返して。

同じ弄り方ばかりだと飽きてしまいますよ。

腰をかくかく言わせながら、一番気持ちいいようにして下さい。

(耳舐め15秒)

だんだん乳首がじんじんしてきましたか？

これからが本番ですよ。ナツの命令を全部受け止めて、もっともーっと気持ちよくなって。

優しく、本当に優しく、爪を立てて乳首をくすぐって下さい。

しゅりしゅり……しゅりしゅり……痛くないようにしてくださいね。

めちやくちやになりたいのはわかりますが、乳首から出血しているご主人様は見たくないですから。

(耳舐め20秒)

しゅりしゅり……しゅりしゅり……感じてる顔、可愛いですよ……。

(耳舐め20秒)

次は、複数本の指先で同時に、乳首をこしょこしょくすぐって下さい。



刺激が桁違いになるはずです。

足をびーんって伸ばして、限界までこの刺激の気持ちよさを。味わって下さい。

(耳舐め12秒)

気持ちいいですね……頭がほわほわしてきたのではありませんか。  
溶けて下さい。

(耳舐め5秒)

どこまでも。

(耳舐め20秒)

では、一旦止めて下さい。

(左 超近距離 囁き)

軽くスパートをかけますよ。指先を何かでぬるさせて下さい。  
ぬるぬるさせないと、乳首が駄目になってしまいますから。

ぬるぬる液が切れたなら、薬草を潰してくるのでゆって下さいね。

まずはぬるぬるを伸ばすみたいに指の腹で乳首を弄りましょう。

(耳舐め15秒)

感じて下着を汚してしまいましたか？

気持ちよくてちよつとだけ腰が動いているのでは？

いけないご主人様ですねー。

(耳ふー アドリブ1秒換算)

ふふっ。反応、面白いです。

飽きてきたら、爪を立てていじってみませんか。

ぬるぬるがありますから多少強くても大丈夫です。

それにも飽きたら、指先で摘んでくくに。

爪を立てたり、つまんだり、指の腹だったり、好きなように弄ってみてください。

しばらくずっと舐めていますから。

腰をかくかく振りながら、乳首の快感を味わっていて下さいね。

(舐め40秒)

淫乱ご主人様。

(舐め40秒)

軽く達しそうですか？

おかしくなれそうですか？

結構です。では、イけるように、お好きなように、乳首を弄ってください。

おかしくなりましょう。

ご主人様がおかしくなって、変態になって、人種をやめてしまっても、ずっと一緒にいますからね。

弄って、弄って、弄って。乳首を弄って。

足にぎゅーって力を入れて、快楽を逃さないで。

いきそうになったら、もっと速く弄って、そして……

イク。イク。イク。絶頂する。

下腹部に熱が溜まって、ぎゅーって足に力を入れて、一度前の絶頂よりももっとちょっとだけ気持ちいい絶頂。

とろとろって頭に気持ちいいが流れ込んで、別に爆発もしないし、流れ出しもせず、ただただ溜まっていく。

その絶頂がご自身を包んで、自分が消えてしまいそうになって……また戻ってくる。

まだ手を動かしてもいいですよ……。

どうですか？ 満足しましたか？ あるいはまだ足りませんか。

願いを教えてください。ナツは何回でもお付き合いしますから。

□ほんの少しだけ明るい月夜の慰め・解除

そうですか。

(中央 中距離 普通の声)

催眠を完全解除します。

解除しておけば、シラフで耳を舐められるたびに入ることはありません。

今から10数え上げますので、数え終わればご主人さまの催眠状態は完全に終わっています。

かけられた暗示の内容は、覚えておきたければ、次催眠状態になった時に思い出します。けれど通常の状態では、一切思い出す事はありません。

1、2、3、4、5。徐々に気分が晴れやかになっていきます。

6、7、8、9。さつきのはなんだったんだろう。もう思い出せないくらい、催眠状態から解けています。

10数えたら、必ずご主人様の催眠は解けます。  
10。

終わりです。催眠状態は終わり。さあ、冷たい水でも飲んで下さい。すっきりしますよ。えっちで消耗したとは思いますが、お休みされるなり、ご本を読むなり、次にやりたいことはなんですか。

□雨降る日のお出かけ準備

(中央 遠距離、ほぼ別の部屋を想定 普通の声)

帰りました。いますよね、ご主人様。

(中央 中距離 普通の声)

ああ。

(中央↓やや左に移動しながら 中距離 普通の声)

ただいま帰りました、ご主人様。外は雨が降っていましたよ。

(やや左より 中距離 普通の声)

……え。

どうしたんですか、ご主人様。歯磨きセットとかみそりなんて持つて、歯を磨いて、今日はおめかしまでしたのですか？

偉い。かっこいい。素敵です。

おめかししたご主人様は本当に素敵で、見ていると最高の気分になるわ。……つと、んんつ。

そうだ。せっかくだったら、耳掃除もしませんか。

耳掃除は耳によくないと言いますが、清潔感にはいいですよ。

(左の近距離に移動しながら 普通の声)

良いから良いから。ナツの膝枕に来て下さい。

(左 近距離 普通の声)

耳を愛撫される快樂に歪むだらしない顔も、セットで見ておきたいので……という冗談はさておき、どうぞどうぞ。ね。

ふふふ……ご主人様を耳かき。大切なお仕事ですから。

しかも（※耳かきは）無限にできる。爪は切ると切れちゃいますからね。

（右 超近距離 普通の声）

かきかきかき。

買い物帰りのいつもの道で、例の野良の子供のハウンドに餌をやりました。

最近、近くに行くだけで尻尾を振りながら駆け寄ってくるようになったんですね。

わんわん、わんわんって。

わんちゃんはすごく可愛いいわ。世話をちゃんとするので、落ち着いたら飼いたいです。

ご主人様は動物に好かれるタイプ……ではなかったですね。

申し訳ありません。

っ精霊に嫌われても、動物に嫌われても、

私という妖精は好きですから大丈夫ですよ。

……なんで私唐突に愛の告白してしまったのかしら。

？ ふふ、もう、どうしたんですか。左手にぎにぎしないでください。

くすぐったいわ。

……やだ、もう、握らないで。照れてしまいますから。

はい、握手はおしまいです。続けるなら振りほどきますよ。というか、右手で耳たぶを千切って粉々にしますよ。

（※彼女が得意な「雪魔法」は、物体をバラバラに分離させる魔法です）

ナツは一応幻想とかお伽噺の存在なんですから。ご主人様だからって気安く触ったらだめだわ。

自分で言うなって言われても、事実そうなんですつ。

（耳ふー）

右側おしまい。ごろんってして、私のお腹を向いて下さい。

(左 超近距離 囁き)

行きます。

くすぐったいですか？

ごめんなさい、耳を痛めたらまずいのでほとんどくすぐっています。

ご主人様がぞわぞわに耐えながら私のスカートをぎゅっと握るのがとても可愛らしくてやめられないんです。

ご主人様のせいだわ。全部悪いです。

こしょこしょこしょ。

一応かすみみたいな感じのやつだけちりがみに取っておいてますので。

こしょこしょこしょ。

(右 超近距離 囁き声)

良い夢を見たんですよ。

世界のどこかに小さな部屋があって、そこで時計がずっと動き続けていて、世界の時計を刻んでいるおとぎばなしの夢。

世界がうまくいかなかったり、終わったら、そこに住む神様が、手で時計の針をくるくるまわして、世界をはじめりに戻す。

そのおとぎばなしの神様の顔がですね、よく見るとご主人様の顔なんです。

夢の中のご主人様は、上手く行かないたびに時計の針をちよつとだけ戻して、いろんな人を幸せにして、ご自身も幸せになって、

そして幸せそうに、その部屋に暮らしているんです。

たまにその部屋には誰かが遊びに来ますし、ご主人様も誰かの家に遊びに行きます。

ご主人様と仲が良かった人はもちろん、ご主人様に石を投げた人達も、

この前はすまなかった、

私達のために頑張ってくれたのに、って、遊びに来るんです。

何か楽しいことの前兆なのかしら。気になるわ。

(左 近距離 普通の声と囁き声の間)

……ふふ。もういいんですか。  
しょうがないご主人様ですね。

耳かき棒を使って、耳だけで気をやるくらい開発しようと思ったのに。

(真後ろ 中距離 普通の声)

？

なんだか今日は気分良さそうですね？  
これからどうされるんですか。

え……？ 出かける準備……。

出かける……準備だったの。今のは。

どこに？ ……そうですか。今日は、こっそり使命を。

(左よりの後ろ、数行前よりちょっとだけ近く 中距離 普通の声)

……ふふ。弱っているご主人様も可愛いけど。働くご主人さまも、すごくすごくカッコいい。

(左よりの後ろ 近距離 囁き声)

お供、しますか？

(聞き手はヒロインを抱きしめています。ダミーヘッド等とすれ違うように、抱きしめ合うように収録頂けますと幸いです)

(左 抱き合った距離 囁き混じりの普通の声)

ひやつ。な、なんですか急に。そんな急に抱きしめられても……どうしたのですか。  
……どうしたのですか？

……な、なんか喋って下さい。

あの、抱きしめられても照れませんよ、別に。  
ナツはもう子供じゃないんですから。  
（照れています）

……うう……なんですか、急に。本当に。

やだ……ご主人様がどきどきして、どきどきが移って変になります。ただそれだけです……ナツはドキドキしてないわ。

ちよつと……ご主人様……？ んう……。強く抱きしめないで下さい、おかしくなります。……いやです……もうやめてください……。

うひゃっ何！？ 耳元で囁かないで下さいっ。

（左 抱き合った距離 普通の声）

……「行ってくる」。ですか。

……ふふ。

畏まりました。晩御飯を作ってお待ちしております。

行っってらっしやいませ。私の、最高にカッコいいご主人様。